



赤旗 読者通信 改題

2022. 1. 30 通巻No.1545

日本共産党 小矢部市委員会 市内七社 245 Tel 67-4322 Fax 67-4842

何でもご相談を



市議会議員 砂田喜昭 Tel 67-4322



参議院議員 たけだ良介

前衆院議員 藤野保史

参議院議員 井上哲士

衆議院議員 笠井あきら

禁無断転載 複写配布

学童保育指導員の処遇改善を

学童保育指導員の処遇改善・賃上げを求めて、砂田市議は1月19日の市議会全員協議会で質問しました。この処遇改善の財源は国が9月までは全額負担するもので、その概要は先週号の『週刊明るい小矢部』1月23日付2面に「しんぶん赤旗」の記事を転載しました。

市議会全員協議会での砂田市議の質問

【砂田市議】 学童保育の指導員の皆さんの処遇改善について、国は放課後児童支援員等処遇改善臨時特例事業を2月から実施するということだが、この内容と小矢部市の対応はどうか。

「月9千円程度の賃上げを2月から」

厚生労働省

【子ども課長】 厚生労働省は、その処遇改善臨時特例事業の実施要項を定めた。内容は、新型コロナウイルス感染症への対応と少子高齢化への対応が重なる最前線で働く放課後児童支援員の処遇改善のため、賃上げ効果が継続される取組みを行うことを前提として、収入を3%程度、月額9千円を引き上げるための措置を今年2月から実施する。令和4年（2022年）2月から9月までの間は、国10分の10の補助がある。令和4年10月以降においても賃金改善の水準を維持することとなり、国、県、市が3分の1ずつ負担する。

小矢部市 今年の予算3月にあげたい 委託業者と民間2カ所に 意向確認中

市として、最近になってようやくQ&Aが送られてきて、詳細が分かったところであり、公立の委託業者と民間2カ所に対して情報を提供したところである。処遇改善の事業を市としても活用したいと思っているので、現在、委託先に必要な要件をクリアできるかどうかの意思確認を行っている。活用する意向があったと

きには、速やかに3月補正に挙げていきたいと思っている。

市の「臨時特例事業」活用が 国・負担金の前提

【砂田市議】 実施主体の市町村がこの処遇改善臨時特例事業を活用しないと、その地域の学童保育所は補助金の申請ができないことになっている。各事業者に積極的に働きかけて欲しい。福利厚生費を入れると1万1千円くらいが上限になるらしい。これは、1日6時間以上かつ20日間以上勤務しているのを常勤職員としてみなし、非常勤はそれに対していくらかの割合をかけて考えたいという内容である。今年の2月から取組むのが前提になっていて、新年度4月からは対象

スタディメイトに学級支援講師の役割、果たせるか？

「支援講師に相当する人数、勤務時間 教員資格を持った方を配置したい」市

小矢部市が独自に配置してきた多人数学級支援講師（小学1年から3年生の3人以上のクラス）を2022年（令和4年）度から廃止することに対して、新日本婦人の会小矢部支部から存続の要望が出されています。多人数支援講師は提出物の点検や授業の準備、遅れがちな子どもへの個別指導など担任の補助をしています。児童の生活支援が目的のスタディメイトにこの役割を果たさせることは可能でしょうか。

本来、国が教職員定数増で30人学級を実現すべきですが、とても待てません。これに関して昨年11月24日の全員協議会で砂田市議が質問しました。

【砂田市議】 多人数学級支援講師を止めてスタディメイトに代えるとのことだが、スタディメイトは、人数、勤務時間などがどう変わっていくのか。多人数学級支援講師は、担任を助ける役割もあつた。そういう活



外になる事情もあるので、しっかりと取り組んでほしい。2月、3月分は、一括して支給するやり方もOKだという話である。3月補正で対応することなので、ぜひそうなるようにお願いしたい。



「鋭意努力する」 民生部長

【民生部長】 小矢部市の場合、放課後児童クラブは、企業、社会福祉法人へ委託しており、その事業主体のところは、しっかりとこの事業の内容を理解して、要件をクリアできるかが非常に大事なところだと思う。そのためにはこちらから、今回の事業をしっかりと説明して理解いただき、この事業を活用してもらえよう、鋭意努力をしたい。

動は、どのように保障されるのか。

【教育委員会事務局次長】 多人数学級への運営支援はスタディメイト派遣事業により対応していきたい。

スタディメイト振替に対する人数、時間は、現在、校長会から多人数学級支援講師に相当する人数、時間の要望が出る予定と聞いている。その要望を受けて、新年度予算の中でその対応、時間、配置人数について協議していきたい。

【砂田市議】 22年度の31人を超えるクラスはいくつか。

【教育委員会事務局次長】 多人数学級支援講師は、運営支援を大きな目的としており、スタディメイトは肢体不自由児童に対する生活支援を目的として役割をお願いしている。令和4年度に31人以上になるクラスは、見込みで3小学校4教室である。この教室に対してスタディメイトを配置できないか、新年度予算の中で検討していきたい。できるだけ教員資格を持った方を配置できるように対応できればいいと考えており、その方向で検討していきたい。